

<b>Course number</b>	G-LAS10 80036 SJ36				
<b>Course title (and course title in English)</b>	ドイツ文芸思想論 German Literature and Thought		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Graduate School of Human and Environmental Studies Associate Professor, SUTOU SHUUHEI	
<b>Group</b>	Interdisciplinary Graduate Courses		<b>Field(Classification)</b>	Humanities and Social Sciences	
<b>Language of instruction</b>	Japanese		<b>Old group</b>		<b>Number of credits</b> 2
<b>Number of weekly time blocks</b>	1	<b>Class style</b>	Seminar (Face-to-face course)		<b>Year/semesters</b> 2025・First semester
<b>Days and periods</b>	Mon.4		<b>Target year</b>	Graduate students	<b>Eligible students</b> For liberal arts students

(Students of Graduate School of Human and Environmental Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)

### [Overview and purpose of the course]

フランス革命前後の時期にあたる1784-1790年に、ドイツの国法学者フリードリヒ・カール・フォン・モーザーが編纂したパトリオティズム（愛国主義）に関する論集をドイツ語で読み、当時のドイツ人が「ドイツ」「国民」「愛国」といった観念についてどのような考えを持っていたのかを学びます。

愛国主義やナショナリズムは現代でも重要なテーマですが、「国民」という概念が現在のようない意味で用いられるようになったのは、18世紀以降、特にフランス革命以降のことです。このとき、近代的な国家制度を確立したフランスとは異なり、ドイツはまだ統一国家を持っていませんでした。そのような時代に、ドイツの作家はどのような問題に直面し、何を求め、何を批判したのか。実際に18世紀に書かれた歴史的なテキストを読むことで、ドイツの歴史的な事情について学ぶとともに、当時の人々の思考法を理解することを目指します。

授業ではおもにドイツ語文献を精読します。担当者が訳文を作成し、それを共有して検討する形式にする予定です。進度は参加者の習熟度に応じて調整します。また、ご自身の研究内容についてレジュメを作って発表してもらいます。本演習には様々な分野の院生が参加してくれるはずですので、質疑応答を通じて専門外の人とも意見を交換することができます。ドイツの歴史社会や思想史に関心がある人、ドイツ語テキストを読むことに慣れたい人を広く歓迎します。

### [Course objectives]

- ・ドイツ語で書かれたテキストを原典で読み、その内容を理解する。（技能）
- ・近代ドイツ語圏が置かれた歴史的状況についての知識を得る。（知識）
- ・現代日本とは別の文脈に生きた人々の思考法を理解することで、自分自身が関心を持つ問題について多角的に考える力を養う。（態度、志向性）

### [Course schedule and contents]

- 第1回 オリエンテーション
- 第2-4回 テキスト講読
- 第5回 これまでに得た知識をふまえて議論する
- 第6-8回 テキスト講読
- 第9-14回 研究発表会
- 第15回 フィードバック

Continue to ドイツ文芸思想論(2)

## ドイツ文芸思想論(2)

### [Course requirements]

ドイツ語が読めること。とはいえ解説はゆっくり丁寧におこなうので、初級文法の知識があり、自ら学ぶ姿勢があれば歓迎します。

本科目は半期授業ですが、いわゆる「ゼミ」のような形で運営しますので、後期科目「文芸表象論演習2」も合わせて受講することをおすすめします。もちろん、半期の受講も可能です。

### [Evaluation methods and policy]

平常点（各回の発言や和訳等）70%、レポート30%として総合的に評価する。

### [Textbooks]

Instructed during class

授業中にテキストを配布します。

### [References, etc.]

（References, etc.）

Introduced during class

### [Study outside of class (preparation and review)]

ドイツ語のテキストを精読するため、授業前の準備が重要となる。

### [Other information (office hours, etc.)]